

経済学研究科

◎経済学研究科経済学専攻博士前期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制 2025年度入学生適用

1. 博士前期課程における研究指導計画

2年次必須の「研究科論文指導」では学位論文の完成を目指して、2年次の前期と後期に指導教員を中心とした指導を行う。修士論文の完成に向けては、指導教員（論文審査で主査となる）以外に、1名の論文審査で副査に予定されている教員も修士論文の作成に係る指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教員を決定する。 各大学院生は、主指導教員・副指導教員から履修科目についての指導を受ける。当該指導教員が担当する「演習」、または「特論Ⅰ」、「特論Ⅱ」を履修し、その助言を受けて研究テーマに適合する履修科目を決定し、履修登録する。 「演習」、または「特論Ⅰ」、「特論Ⅱ」では各大学院生の学位論文の作成に必要な基礎的技術や視点を学び、個別の研究テーマの明確化作業を一年間通じて行う。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【2年次】

4月	研究科ガイダンスを行う。 各大学院生は、1年次に引き続き指導教員が担当する「研究科論文指導」を履修し、またその助言を受けて2年次の履修科目を決定・登録する。 修士論文の研究計画の作成し、また修士論文の題目を提出する。
9、10月	修士論文の中間報告を行う。指導教員を含む本研究科の全教員から指導と助言を受ける。
1月	修士論文の提出
2月	論文査読ならびに口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、経済学研究科委員会及び大学院委員会で可否を決定する。

2. 学位（修士）論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

経済学研究科の学位授与の方針により、博士前期課程では以下の4基準により、論文審査と口述試験による最終審査をもって、修士の学位審査を行う。

1. 経済・社会の諸問題に関する多角的な視点及び基本的な知識を有すること。
2. 経済・社会の事象や問題について理論的、実証的又は歴史的に分析すること。
3. 経済・社会の諸問題に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有し、課題解決策を提案できること。
4. 経済・社会に関する諸問題に、経済学の知識を活用して学術研究を遂行し、研究成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意欲を有すること。

これらの審査基準に関しては、入学式直後に実施される経済学研究科ガイダンスにおいて配布資料をもとに研究科長より説明がなされる。さらに、1年次から2年次にかけて論文題目を決定する際にも、指導教員からあらためて審査基準に関しての指導がなされ、基準を満たしていない学位論文は不合格と判定されることも周知される。

(2) 審査体制

本研究科では、学位論文審査に際して、論文審査委員（主査1名、副査1名）が選任され、論文審査と最終試験（口述試験）が実施される。審査委員は、その審査結果を研究科委員会に報告し、研究科委員会での審議によって合否が決定されることになる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議の後、学位（修士）を授与する。

◎経済学研究科経済学専攻博士前期課程授業科目及び履修単位

2025年度入学生適用

原則としてⅠ前期 Ⅱ後期 開講

区分	科目名	単 位				担当者名	
		1 年		2 年			
		単位	開講期	単位	開講期		
基礎研究科	経済学特論	2	半期			アレイ ウィルソン	
	リサーチリテラシー特論	2	半期			篠崎 剛	
研究科講義	経済理論	ミクロ経済学特論Ⅰ	2	半期			アレイ ウィルソン
		ミクロ経済学特論Ⅱ	2	半期			アレイ ウィルソン
		マクロ経済学特論Ⅰ	2	半期			伊藤 健 宏
		マクロ経済学特論Ⅱ	2	半期			伊藤 健 宏
		社会経済学特論Ⅰ	2	半期			泉 正 樹
		社会経済学特論Ⅱ	2	半期			泉 正 樹
		産業組織論特論Ⅰ	2	半期			倉田 洋
		産業組織論特論Ⅱ	2	半期			倉田 洋
		ゲーム理論特論Ⅰ	2	半期			稲見 裕 介
		ゲーム理論特論Ⅱ	2	半期			稲見 裕 介
	経済統計	経済政策論特論Ⅰ	2	半期			佐藤 康 仁
		経済政策論特論Ⅱ	2	半期			佐藤 康 仁
		国際経済論特論Ⅰ	2	半期			篠崎 剛
		国際経済論特論Ⅱ	2	半期			篠崎 剛
		実験経済学特論Ⅰ	2	半期			黒阪 健 吾
		実験経済学特論Ⅱ	2	半期			黒阪 健 吾
		経済モデル・シミュレーション特論Ⅰ	2	半期			松前 龍 宜
		経済モデル・シミュレーション特論Ⅱ	2	半期			松前 龍 宜
		計量経済学特論Ⅰ	2	半期			舟島 義 人
		計量経済学特論Ⅱ	2	半期			舟島 義 人
応用経済	産業連関分析特論Ⅰ	2	半期			板 明 果	
	産業連関分析特論Ⅱ	2	半期			板 明 果	
	経済統計学特論Ⅰ	2	半期			岩本 菜 々	
	経済統計学特論Ⅱ	2	半期			岩本 菜 々	
	東北経済論特論Ⅰ	2	半期			千葉 昭 彦	
	東北経済論特論Ⅱ	2	半期			千葉 昭 彦	
	日本経済論特論Ⅰ	2	半期			田野 穂	
	日本経済論特論Ⅱ	2	半期			田野 穂	
	国際金融論特論Ⅰ	2	半期			伊鹿倉 正 司	
	国際金融論特論Ⅱ	2	半期			伊鹿倉 正 司	
都市経済学特論Ⅰ	2	半期			吉田 惇		
都市経済学特論Ⅱ	2	半期			吉田 惇		
開発経済学特論Ⅰ	2	半期			窪田 恵 子		

区 分	科 目 名	単 位				担 当 者 名	
		1 年		2 年			
		単位	開講期	単位	開講期		
		開発経済学特論Ⅱ	2	半期		窪 田 恵 子	
		情報経済論特論Ⅰ	2	半期		小 林 陽 介	
		情報経済論特論Ⅱ	2	半期		小 林 陽 介	
		財政学特論Ⅰ	2	半期		谷 達 彦	
		財政学特論Ⅱ	2	半期		谷 達 彦	
		地方財政論特論Ⅰ	2	半期		佐 藤 滋	
		地方財政論特論Ⅱ	2	半期		佐 藤 滋	
		社会政策論特論Ⅰ	2	半期		黒 坂 愛 衣	
		社会政策論特論Ⅱ	2	半期		黒 坂 愛 衣	
		社会保障論特論Ⅰ	2	半期		熊 沢 由 美	
		社会保障論特論Ⅱ	2	半期		熊 沢 由 美	
		環境経済論特論Ⅰ	2	半期		谷 祐可子	
		環境経済論特論Ⅱ	2	半期		谷 祐可子	
		経済地理学特論Ⅰ	2	半期		千 葉 昭 彦	
		経済地理学特論Ⅱ	2	半期		千 葉 昭 彦	
		地域社会論特論Ⅰ	2	半期		齊 藤 康 則	
		地域社会論特論Ⅱ	2	半期		齊 藤 康 則	
		現代社会論特論Ⅰ	2	半期		郭 基 煥	
		現代社会論特論Ⅱ	2	半期		郭 基 煥	
		歴史		西洋経済史特論Ⅰ	2	半期	
西洋経済史特論Ⅱ	2			半期		佐 藤 純	
日本経済史特論Ⅰ	2			半期		白 鳥 圭 志	
日本経済史特論Ⅱ	2			半期		白 鳥 圭 志	
研究科演習	経済理論	マクロ経済学演習	4	通年		伊 藤 健 宏	
		社会経済学演習	4	通年		泉 正 樹	
		ゲーム理論演習	4	通年		稲 見 裕 介	
		経済政策論演習	4	通年		佐 藤 康 仁	
		実験経済学演習			4	通年	黒 阪 健 吾
	経済統計	経済統計学演習	4	通年		岩 本 菜 々	
	応用経済		日本経済論演習	4	通年		田 野 穂
			国際金融論演習	4	通年		伊 鹿 倉 正 司
			都市経済学演習	4	通年		吉 田 惇
			情報経済論演習	4	通年		小 林 陽 介
			財政学演習	4	通年		谷 達 彦
			地方財政論演習	4	通年		佐 藤 滋
			社会政策論演習	4	通年		黒 坂 愛 衣
			社会保障論演習	4	通年		熊 沢 由 美
			環境経済論演習	4	通年		谷 祐可子
			経済地理学演習	4	通年		千 葉 昭 彦
			地域社会論演習	4	通年		齊 藤 康 則
	現代社会論演習	4	通年		郭 基 煥		
	歴史		西洋経済史演習	4	通年		佐 藤 純
			日本経済史演習	4	通年		白 鳥 圭 志
		研究科論文指導			4	通年	経済学専攻専任教員

◎履修方法

2025年度入学生適用

2年以上在学して授業科目について、次により32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

- (1) 研究科基礎科目の2科目4単位を修得しなければならない。
- (2) 指導教員による研究科講義科目2科目4単位（経済理論、経済統計、応用経済ないし歴史のうちから選択）と研究科演習4単位及び研究科論文指導4単位合計12単位の修得を必ず含むものとする。

卒業・修了要件

基礎科目／専門講義科目／演習

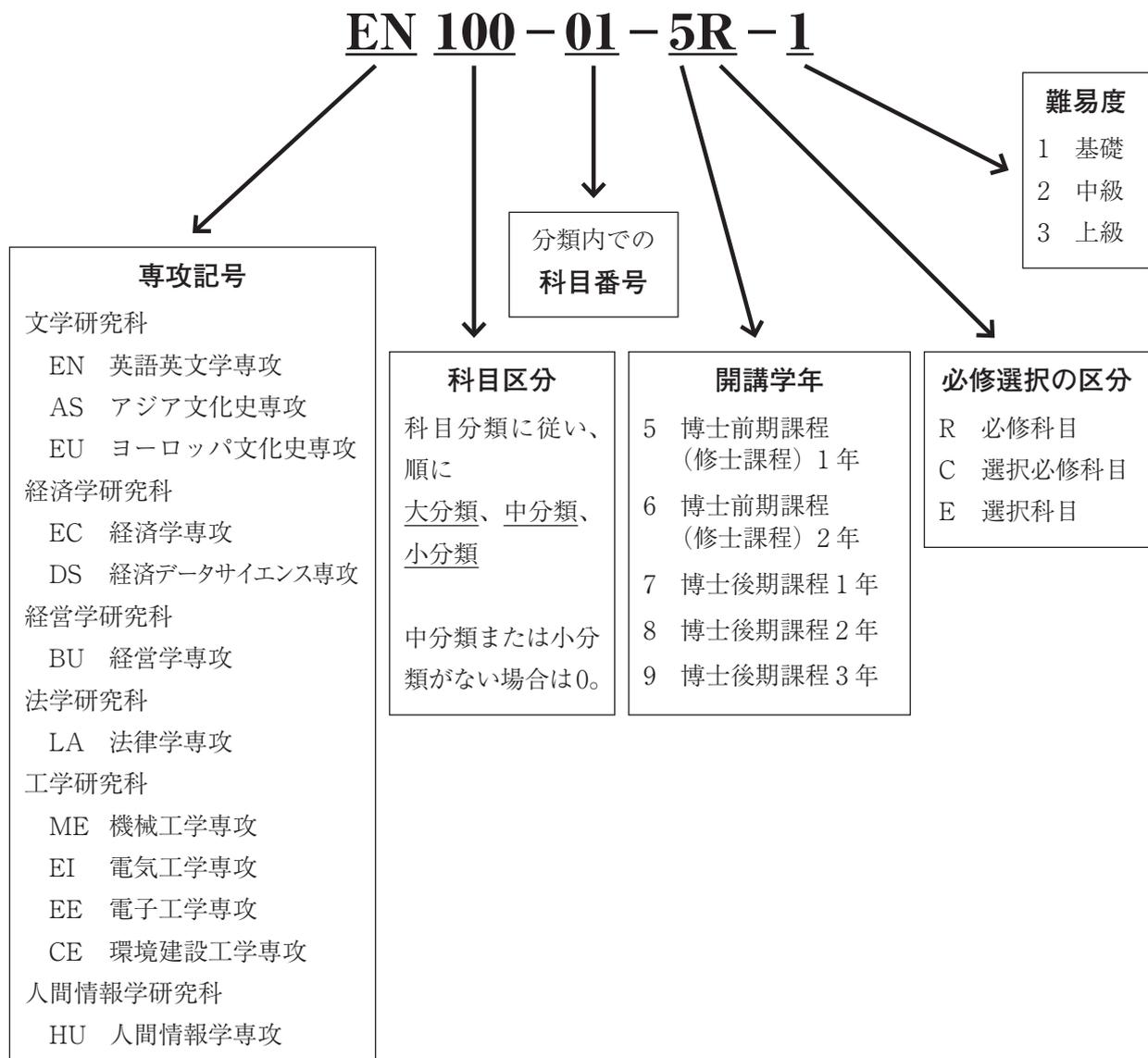
研究科基礎科目	4単位
研究科講義科目（経済理論、経済統計、応用経済、歴史）	20単位
研究科演習	4単位
研究科論文指導	4単位
合計	32単位

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針（ディプロマポリシー）のいずれを達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目について◎は「その科目がその方針の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



◎経済学研究科経済学専攻博士前期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

2025年度入学生適用

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）							
		経済学に関する幅広く視野、基本的な知識及び思考力を有すること	経済学に関するいくつかの特定テーマについて専門的な知識を有すること	経済学に関する研究課題について、専門的な価値のある知見を有すること	経済学に関する学術研究の遂行及び成果の表に出る必要知識、技能、意欲を有すること	経済学研究科に関して学修成果を示すことができる。	理論に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	政策に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	歴史に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。
EC100-01-5R-3	経済学特論	◎							
EC100-02-5R-3	リサーチリテラシー特論				◎				
EC210-01-5E-3	ミクロ経済学特論Ⅰ	◎							
EC210-02-5E-3	ミクロ経済学特論Ⅱ	◎							
EC210-03-5E-3	マクロ経済学特論Ⅰ	◎							
EC210-04-5E-3	マクロ経済学特論Ⅱ	◎							
EC210-05-5E-3	社会経済学特論Ⅰ	◎							
EC210-06-5E-3	社会経済学特論Ⅱ	◎							
EC210-07-5E-3	産業組織論特論Ⅰ	◎							
EC210-08-5E-3	産業組織論特論Ⅱ	◎							
EC210-09-5E-3	ゲーム理論特論Ⅰ	◎							
EC210-10-5E-3	ゲーム理論特論Ⅱ	◎							
EC210-11-5E-3	経済政策論特論Ⅰ	◎							
EC210-12-5E-3	経済政策論特論Ⅱ	◎							
EC210-13-5E-3	国際経済論特論Ⅰ	◎							
EC210-14-5E-3	国際経済論特論Ⅱ	◎							
EC210-15-5E-3	実験経済学特論Ⅰ	◎							
EC210-16-5E-3	実験経済学特論Ⅱ	◎							
EC220-01-5E-3	経済モデル・シミュレーション特論Ⅰ	◎							
EC220-02-5E-3	経済モデル・シミュレーション特論Ⅱ	◎							
EC220-03-5E-3	計量経済学特論Ⅰ	◎							
EC220-04-5E-3	計量経済学特論Ⅱ	◎							
EC220-05-5E-3	産業連関分析特論Ⅰ	◎							
EC220-06-5E-3	産業連関分析特論Ⅱ	◎							
EC220-07-5E-3	経済統計学特論Ⅰ	◎							
EC220-08-5E-3	経済統計学特論Ⅱ	◎							
EC230-01-5E-3	東北経済論特論Ⅰ	◎							
EC230-02-5E-3	東北経済論特論Ⅱ		◎						
EC230-03-5E-3	日本経済論特論Ⅰ		◎						
EC230-04-5E-3	日本経済論特論Ⅱ		◎						
EC230-05-5E-3	国際金融論特論Ⅰ		◎						
EC230-06-5E-3	国際金融論特論Ⅱ		◎						
EC230-07-5E-3	都市経済学特論Ⅰ		◎						
EC230-08-5E-3	都市経済学特論Ⅱ		◎						
EC230-09-5E-3	開発経済学特論Ⅰ		◎						
EC230-10-5E-3	開発経済学特論Ⅱ		◎						
EC230-11-5E-3	情報経済論特論Ⅰ		◎						
EC230-12-5E-3	情報経済論特論Ⅱ		◎						
EC230-13-5E-3	財政学特論Ⅰ		◎						
EC230-14-5E-3	財政学特論Ⅱ		◎						
EC230-15-5E-3	地方財政論特論Ⅰ		◎						
EC230-16-5E-3	地方財政論特論Ⅱ		◎						
EC230-17-5E-3	社会政策論特論Ⅰ		◎						

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）							
		経済学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有すること	経済学に関するいくつかの特定テーマについて専門的な知識を有すること	経済学に関する研究課題について、専門的な価値のある知見を有すること	経済学に関する学術研究の遂行及び公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意欲を有すること	経済学研究科に関して学修成果を示すことができる。	理論に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	政策に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	歴史に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。
EC230-18-5E-3	社会政策論特論Ⅱ		◎						
EC230-19-5E-3	社会保障論特論Ⅰ		◎						
EC230-20-5E-3	社会保障論特論Ⅱ		◎						
EC230-21-5E-3	環境経済論特論Ⅰ		◎						
EC230-22-5E-3	環境経済論特論Ⅱ		◎						
EC230-23-5E-3	経済地理学特論Ⅰ		◎						
EC230-24-5E-3	経済地理学特論Ⅱ		◎						
EC230-25-5E-3	地域社会論特論Ⅰ		◎						
EC230-26-5E-3	地域社会論特論Ⅱ		◎						
EC230-27-5E-3	現代社会論特論Ⅰ		◎						
EC230-28-5E-3	現代社会論特論Ⅱ		◎						
EC240-01-5E-3	西洋経済史特論Ⅰ		◎						
EC240-02-5E-3	西洋経済史特論Ⅱ		◎						
EC240-03-5E-3	日本経済史特論Ⅰ		◎						
EC240-04-5E-3	日本経済史特論Ⅱ		◎						
EC310-01-5C-3	マクロ経済学演習			◎					
EC310-02-5C-3	社会経済学演習			◎					
EC310-03-5C-3	ゲーム理論演習			◎					
EC310-04-5C-3	経済政策論演習			◎					
EC320-01-5C-3	経済統計学演習			◎					
EC330-01-5C-3	日本経済論演習			◎					
EC330-02-5C-3	国際金融論演習			◎					
EC330-03-5C-3	都市経済学演習			◎					
EC330-04-5C-3	情報経済論演習			◎					
EC330-05-5C-3	財政学演習			◎					
EC330-06-5C-3	地方財政論演習			◎					
EC330-07-5C-3	社会政策論演習			◎					
EC330-08-5C-3	社会保障論演習			◎					
EC330-09-5C-3	環境経済論演習			◎					
EC330-10-5C-3	経済地理学演習			◎					
EC330-11-5C-3	地域社会論演習			◎					
EC330-12-5C-3	現代社会論演習			◎					
EC340-01-5C-3	西洋経済史演習			◎					
EC340-02-5C-3	日本経済史演習			◎					
EC350-01-6R-3	研究科論文指導				◎				
EC310-05-6R-3	実験経済学演習			◎					

◎経済学研究科経済学専攻博士前期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制
2024年度以前入学生適用

1. 博士前期課程における研究指導計画

2年次必須の「研究科論文指導」では学位論文の完成を目指して、2年次の前期と後期に指導教員を中心とした指導を行う。修士論文の完成に向けては、指導教員（論文審査で主査となる）以外に、1名の論文審査で副査に予定されている教員も修士論文の作成に係る指導と助言を行う。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教員を決定する。 各大学院生は、主指導教員・副指導教員から履修科目についての指導を受ける。当該指導教員が担当する「演習」、または「特論Ⅰ」、「特論Ⅱ」を履修し、その助言を受けて研究テーマに適合する履修科目を決定し、履修登録する。 「演習」、または「特論Ⅰ」、「特論Ⅱ」では各大学院生の学位論文の作成に必要な基礎的技術や視点を学び、個別の研究テーマの明確化作業を一年間通じて行う。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【2年次】

4月	研究科ガイダンスを行う。 各大学院生は、1年次に引き続き指導教員が担当する「研究科論文指導」を履修し、またその助言を受けて2年次の履修科目を決定・登録する。 修士論文の研究計画の作成し、また修士論文の題目を提出する。
9、10月	修士論文の中間報告を行う。指導教員を含む本研究科の全教員から指導と助言を受ける。
1月	修士論文の提出
2月	論文査読ならびに口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、経済学研究科委員会及び大学院委員会で可否を決定する。

2. 学位（修士）論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

経済学研究科の学位授与の方針により、博士前期課程では以下の4基準により、論文審査と口述試験による最終審査をもって、修士の学位審査を行う。

1. 経済・社会の諸問題に関する多角的な視点及び基本的な知識を有すること。
2. 経済・社会の事象や問題について理論的、実証的又は歴史的に分析すること。
3. 経済・社会の諸問題に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有し、課題解決策を提案できること。
4. 経済・社会に関する諸問題に、経済学の知識を活用して学術研究を遂行し、研究成果の公表にむけて、研究者として必要な知識、技能、意欲を有すること。

これらの審査基準に関しては、入学式直後に実施される経済学研究科ガイダンスにおいて配布資料をもとに研究科長より説明がなされる。さらに、1年次から2年次にかけて論文題目を決定する際にも、指導教員からあらためて審査基準に関しての指導がなされ、基準を満たしていない学位論文は不合格と判定されることも周知される。

(2) 審査体制

本研究科では、学位論文審査に際して、論文審査委員（主査1名、副査1名）が選任され、論文審査と最終試験（口述試験）が実施される。審査委員は、その審査結果を研究科委員会に報告し、研究科委員会での審議によって合否が決定されることになる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議の後、学位（修士）を授与する。

◎経済学研究科経済学専攻博士前期課程授業科目及び履修単位

2024年度以前入学生適用

原則としてⅠ前期 Ⅱ後期 開講

区分	科目名	単 位				担当者名
		1 年		2 年		
		単位	開講期	単位	開講期	
研究科講義	研究科基礎	特別演習	2	半期		アレイ ウィルソン
		社会科学特論	2	半期		アレイ ウィルソン
		経済史概説特論	2	半期		佐藤 純
		英語プレゼンテーション	2	半期		谷 祐可子
		情報リテラシー特論	2	半期		篠崎 剛
	経済理論	ミクロ経済学特論Ⅰ	2	半期		アレイ ウィルソン
		ミクロ経済学特論Ⅱ	2	半期		アレイ ウィルソン
		マクロ経済学特論Ⅰ	2	半期		伊藤 健宏
		マクロ経済学特論Ⅱ	2	半期		伊藤 健宏
		経済原論特論Ⅰ	2	半期		(本年度休講)
		経済原論特論Ⅱ	2	半期		(本年度休講)
		社会経済学特論Ⅰ	2	半期		泉 正樹
		社会経済学特論Ⅱ	2	半期		泉 正樹
		金融論特論Ⅰ	2	半期		松前 龍宜
		金融論特論Ⅱ	2	半期		松前 龍宜
		産業組織論特論Ⅰ	2	半期		倉田 洋
		産業組織論特論Ⅱ	2	半期		倉田 洋
		公共経済論特論Ⅰ	2	半期		(本年度休講)
		公共経済論特論Ⅱ	2	半期		(本年度休講)
		経済モデル・シミュレーション特論Ⅰ	2	半期		松前 龍宜
		経済モデル・シミュレーション特論Ⅱ	2	半期		松前 龍宜
		経済倫理学特論Ⅰ	2	半期		(本年度休講)
		経済倫理学特論Ⅱ	2	半期		(本年度休講)
		経済統計学特論Ⅰ	2	半期		岩本 菜々
		経済統計学特論Ⅱ	2	半期		岩本 菜々
	応用経済	東北経済論特論A-Ⅰ	2	半期		千葉 昭彦
		東北経済論特論A-Ⅱ	2	半期		千葉 昭彦
		東北経済論特論B-Ⅰ	2	半期		(本年度休講)
		東北経済論特論B-Ⅱ	2	半期		(本年度休講)
		日本経済論特論Ⅰ	2	半期		田野 穂
		日本経済論特論Ⅱ	2	半期		田野 穂
		世界経済論特論Ⅰ	2	半期		(本年度休講)
		世界経済論特論Ⅱ	2	半期		(本年度休講)
国際経済論特論Ⅰ		2	半期		篠崎 剛	
国際経済論特論Ⅱ		2	半期		篠崎 剛	
国際金融論特論Ⅰ		2	半期		伊鹿倉 正司	
国際金融論特論Ⅱ		2	半期		伊鹿倉 正司	

区分	科目名	単 位				担当者名	
		1 年		2 年			
		単位	開講期	単位	開講期		
		都市経済学特論Ⅰ	2	半期		吉田 惇	
		都市経済学特論Ⅱ	2	半期		吉田 惇	
		経済発展論特論Ⅰ	2	半期		窪田 恵子	
		経済発展論特論Ⅱ	2	半期		窪田 恵子	
		農業経済論特論Ⅰ	2	半期		(本年度休講)	
		農業経済論特論Ⅱ	2	半期		(本年度休講)	
		情報経済論特論Ⅰ	2	半期		小林 陽介	
		情報経済論特論Ⅱ	2	半期		小林 陽介	
		中小企業論特論Ⅰ	2	半期		(本年度休講)	
		中小企業論特論Ⅱ	2	半期		(本年度休講)	
		財政学特論 A - Ⅰ	2	半期		谷 達彦	
		財政学特論 A - Ⅱ	2	半期		谷 達彦	
		財政学特論 B - Ⅰ	2	半期		佐藤 滋	
		財政学特論 B - Ⅱ	2	半期		佐藤 滋	
		経済政策論特論Ⅰ	2	半期		佐藤 康仁	
		経済政策論特論Ⅱ	2	半期		佐藤 康仁	
		社会政策論特論Ⅰ	2	半期		黒坂 愛衣	
		社会政策論特論Ⅱ	2	半期		黒坂 愛衣	
		社会保障論特論Ⅰ	2	半期		熊沢 由美	
		社会保障論特論Ⅱ	2	半期		熊沢 由美	
		社会福祉論特論Ⅰ	2	半期		(本年度休講)	
		社会福祉論特論Ⅱ	2	半期		(本年度休講)	
		加齢経済論特論Ⅰ	2	半期		佐藤 康仁	
		加齢経済論特論Ⅱ	2	半期		佐藤 康仁	
		環境経済論特論Ⅰ	2	半期		谷 祐可子	
		環境経済論特論Ⅱ	2	半期		谷 祐可子	
		経済地理学特論Ⅰ	2	半期		千葉 昭彦	
		経済地理学特論Ⅱ	2	半期		千葉 昭彦	
		地域社会論特論Ⅰ	2	半期		齊藤 康則	
		地域社会論特論Ⅱ	2	半期		齊藤 康則	
		現代社会論特論Ⅰ	2	半期		郭 基煥	
		現代社会論特論Ⅱ	2	半期		郭 基煥	
		研究科特論	2	半期		(本年度休講)	
		歴史	経済史特論 A - Ⅰ	2	半期		佐藤 純
			経済史特論 A - Ⅱ	2	半期		佐藤 純
			経済史特論 B - Ⅰ	2	半期		白鳥 圭志
経済史特論 B - Ⅱ	2		半期		白鳥 圭志		
経済学史特論 A - Ⅰ	2		半期		(本年度休講)		
経済学史特論 A - Ⅱ	2		半期		(本年度休講)		
経済学史特論 B - Ⅰ	2		半期		(本年度休講)		
経済学史特論 B - Ⅱ	2		半期		(本年度休講)		
研究科演習	経済理論	ミクロ経済学演習	4	通年		アレイ ウィルソン	
		マクロ経済学演習	4	通年		伊藤 健宏	
		経済原論演習	4	通年		(本年度休講)	
		社会経済論演習	4	通年		泉 正樹	
		金融論演習	4	通年		松前 龍宜	
		産業組織論演習	4	通年		稲見 裕介	

区分	科目名	単 位				担当者名	
		1 年		2 年			
		単位	開講期	単位	開講期		
応用経済	公共経済論演習	4	通年			(本年度休講)	
	経済モデル・シミュレーション演習	4	通年			板 明 果	
	経済倫理学演習	4	通年			(本年度休講)	
	経済統計学演習	4	通年			岩 本 菜 々	
	東北経済論演習 A	4	通年			(本年度休講)	
	東北経済論演習 B	4	通年			(本年度休講)	
	日本経済論演習	4	通年			田 野 穂	
	世界経済論演習	4	通年			(本年度休講)	
	国際経済論演習	4	通年			篠 崎 剛	
	国際金融論演習	4	通年			伊 鹿 倉 正 司	
	都市経済学演習	4	通年			吉 田 惇	
	経済発展論演習	4	通年			篠 崎 剛	
	農業経済論演習	4	通年			(本年度休講)	
	情報経済論演習	4	通年			小 林 陽 介	
	中小企業論演習	4	通年			(本年度休講)	
	財政学演習 A	4	通年			谷 達 彦	
	財政学演習 B	4	通年			佐 藤 滋	
	経済政策論演習	4	通年			佐 藤 康 仁	
	社会政策論演習	4	通年			黒 坂 愛 衣	
	社会保障論演習	4	通年			熊 沢 由 美	
	社会福祉論演習	4	通年			(本年度休講)	
	加齢経済論演習	4	通年			(本年度休講)	
	環境経済論演習	4	通年			谷 祐 可 子	
	経済地理学演習	4	通年			千 葉 昭 彦	
	地域社会論演習	4	通年			齊 藤 康 則	
	現代社会論演習	4	通年			郭 基 煥	
	研究科論文指導				4 通年	アレイ ウィルソン	
	歴史	経済史演習 A	4	通年			佐 藤 純
		経済史演習 B	4	通年			白 鳥 圭 志
		経済学史演習 A	4	通年			(本年度休講)
		経済学史演習 B	4	通年			(本年度休講)

◎履修方法

2024年度以前入学生適用

2年以上在学して授業科目について、次により32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない

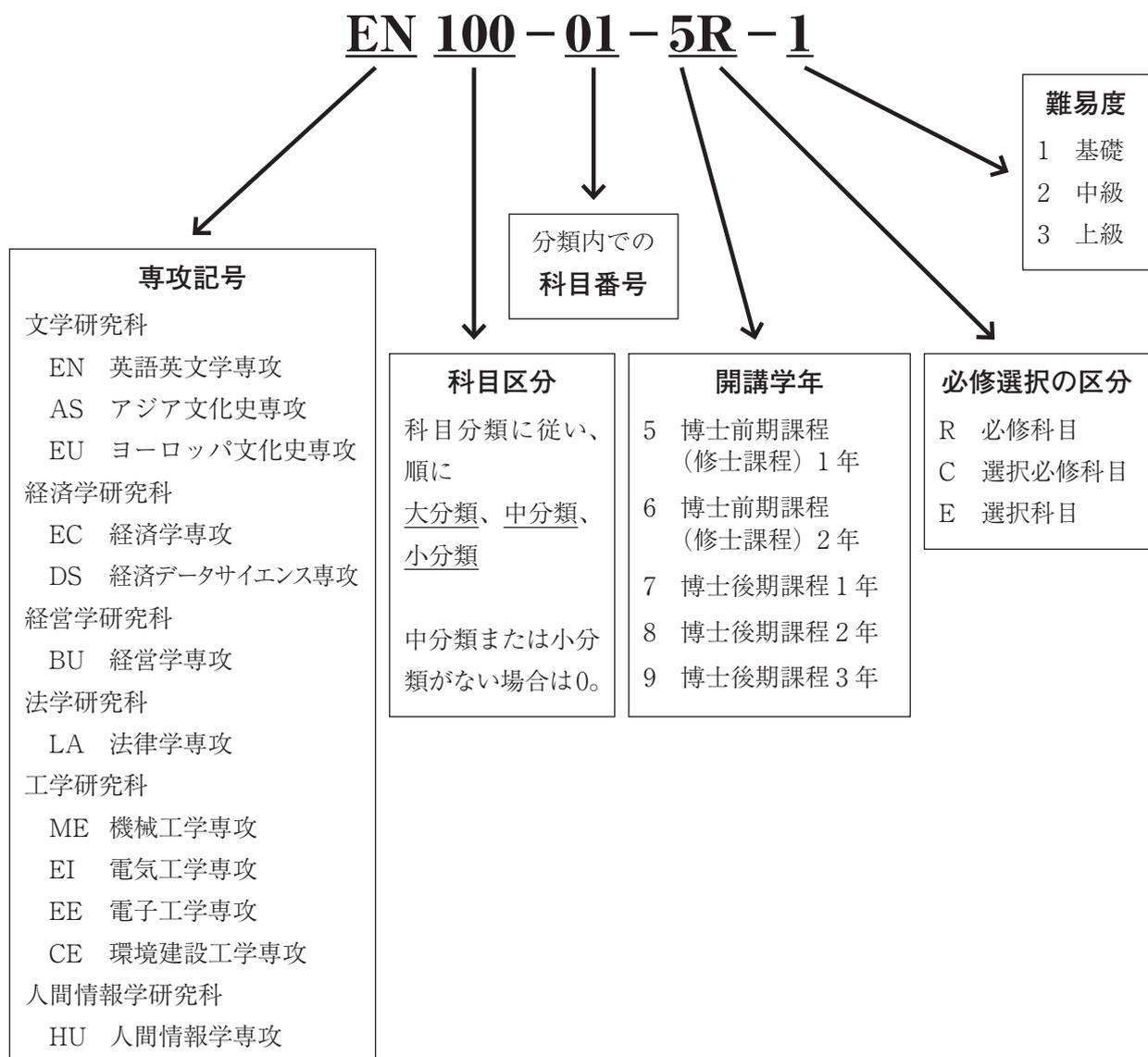
- (1) 研究科基礎科目のうちから2科目4単位を修得しなければならない。ただし、課程修了要件として算入できる単位数は4単位を限度とする。
- (2) 指導教員による研究科講義科目2科目4単位（経済理論、応用経済ないし歴史のうちから選択）と研究科演習4単位及び研究科論文指導4単位合計12単位の修得を必ず含むものとする。
- (3) 指導教員及び当該授業科目の担当教員の承認を得て、他研究科及び専攻の授業科目のうちから選択履修することができるものとし、10単位を限度に課程修了に必要な単位として認める。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針（ディプロマポリシー）のいずれを達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目について◎は「その科目がその方針の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



◎経済学研究科経済学専攻博士前期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

2024年度以前入学生適用

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）							
		経済学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有すること	経済学に関するいくつかのテーマについて専門的な知識を有すること	経済学に関する課題について、専門的な学術的価値を見出すこと	経済学に関する学術的遂行及び研究成果の公表と、必要な知識、意欲を有すること	経済学研究科に関するカリキュラムを通じて、大学の教員や研究スタッフを養成する。	政策に関するカリキュラムを通じて、大学の教員や研究スタッフを養成する。	歴史に関するカリキュラムを通じて、大学の教員や研究スタッフを養成する。	数量分析手法に関するカリキュラムを通して、大学の教員や研究スタッフを養成する。
EC110-01-5C-3	特別演習	◎				○			
EC110-02-5C-3	社会科学特論	◎					○		
EC110-03-5C-3	経済史概説特論	◎						○	
EC110-04-5C-3	英語プレゼンテーション				◎				
EC110-05-5C-3	情報リテラシー特論				◎				○
EC120-01-5E-3	ミクロ経済学特論Ⅰ	◎				○			
EC120-02-5E-3	ミクロ経済学特論Ⅱ	◎				○			
EC120-03-5E-3	マクロ経済学特論Ⅰ	◎				○			
EC120-04-5E-3	マクロ経済学特論Ⅱ	◎				○			
EC120-05-5E-3	経済原論特論Ⅰ	◎				○			
EC120-06-5E-3	経済原論特論Ⅱ	◎				○			
EC120-07-5E-3	社会経済学特論Ⅰ	◎				○			
EC120-08-5E-3	社会経済学特論Ⅱ	◎				○			
EC120-09-5E-3	金融論特論Ⅰ	◎				○			
EC120-10-5E-3	金融論特論Ⅱ	◎				○			
EC120-11-5E-3	産業組織論特論Ⅰ	◎				○			
EC120-12-5E-3	産業組織論特論Ⅱ	◎				○			
EC120-13-5E-3	公共経済論特論Ⅰ	◎				○			
EC120-14-5E-3	公共経済論特論Ⅱ	◎				○			
EC120-15-5E-3	経済モデル・シミュレーション特論Ⅰ	◎							○
EC120-16-5E-3	経済モデル・シミュレーション特論Ⅱ	◎							○
EC120-17-5E-3	経済倫理学特論Ⅰ	◎				○			
EC120-18-5E-3	経済倫理学特論Ⅱ	◎				○			
EC120-19-5E-3	経済統計学特論Ⅰ	◎							○
EC120-20-5E-3	経済統計学特論Ⅱ	◎							○
EC130-01-5E-3	東北経済論特論A - I		◎				○		
EC130-02-5E-3	東北経済論特論A - II		◎				○		
EC130-03-5E-3	東北経済論特論B - I		◎				○		
EC130-04-5E-3	東北経済論特論B - II		◎				○		
EC130-05-5E-3	日本経済論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-06-5E-3	日本経済論特論Ⅱ		◎				○		
EC130-07-5E-3	世界経済論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-08-5E-3	世界経済論特論Ⅱ		◎				○		
EC130-09-5E-3	国際経済論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-10-5E-3	国際経済論特論Ⅱ		◎				○		
EC130-11-5E-3	国際金融論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-12-5E-3	国際金融論特論Ⅱ		◎				○		
EC130-13-5E-3	都市経済学特論Ⅰ		◎				○		
EC130-14-5E-3	都市経済学特論Ⅱ		◎				○		
EC130-15-5E-3	経済発展論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-16-5E-3	経済発展論特論Ⅱ		◎				○		
EC130-17-5E-3	農業経済論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-18-5E-3	農業経済論特論Ⅱ		◎				○		
EC130-19-5E-3	情報経済論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-20-5E-3	情報経済論特論Ⅱ		◎				○		
EC130-21-5E-3	中小企業論特論Ⅰ		◎				○		
EC130-22-5E-3	中小企業論特論Ⅱ		◎				○		

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）								
		経済学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有すること	経済学に関する基礎的な専門知識を有すること	経済学に関する特定の専門的知識を有すること	経済学に関する課題で、専門的価値のある見解を示すこと	経済学に関する学術的遂行及び研究成果を公表し、必要と認めるときは、論文や研究論文を執筆すること	経済学研究科に関する学修成果を示すことができる。	理論に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	政策に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	歴史に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。
EC130-23-5E-3	財政学特論A - I		○					○		
EC130-24-5E-3	財政学特論A - II		○					○		
EC130-25-5E-3	財政学特論B - I		○					○		
EC130-26-5E-3	財政学特論B - II		○					○		
EC130-27-5E-3	経済政策論特論I		○					○		
EC130-28-5E-3	経済政策論特論II		○					○		
EC130-29-5E-3	社会政策論特論I		○					○		
EC130-30-5E-3	社会政策論特論II		○					○		
EC130-31-5E-3	社会保障論特論I		○					○		
EC130-32-5E-3	社会保障論特論II		○					○		
EC130-33-5E-3	社会福祉論特論I		○					○		
EC130-34-5E-3	社会福祉論特論II		○					○		
EC130-35-5E-3	加齢経済論特論I		○					○		
EC130-36-5E-3	加齢経済論特論II		○					○		
EC130-37-5E-3	環境経済論特論I		○					○		
EC130-38-5E-3	環境経済論特論II		○					○		
EC130-39-5E-3	経済地理学特論I		○					○		
EC130-40-5E-3	経済地理学特論II		○					○		
EC130-41-5E-3	地域社会論特論I		○					○		
EC130-42-5E-3	地域社会論特論II		○					○		
EC130-43-5E-3	現代社会論特論I		○					○		
EC130-44-5E-3	現代社会論特論II		○					○		
EC130-45-5E-3	研究科特論		○							
EC140-01-5E-3	経済史特論A - I		○						○	
EC140-02-5E-3	経済史特論A - II		○						○	
EC140-03-5E-3	経済史特論B - I		○						○	
EC140-04-5E-3	経済史特論B - II		○						○	
EC140-05-5E-3	経済学史特論A - I		○						○	
EC140-06-5E-3	経済学史特論A - II		○						○	
EC140-07-5E-3	経済学史特論B - I		○						○	
EC140-08-5E-3	経済学史特論B - II		○						○	
EC210-01-5C-3	ミクロ経済学演習			○			○			
EC210-02-5C-3	マクロ経済学演習			○			○			
EC210-03-5C-3	経済原論演習			○			○			
EC210-04-5C-3	社会経済論演習			○			○			
EC210-05-5C-3	金融論演習			○			○			
EC210-06-5C-3	産業組織論演習			○			○			
EC210-07-5C-3	公共経済論演習			○			○			
EC210-08-5C-3	経済モデル・シミュレーション演習			○						○
EC210-09-5C-3	経済倫理学演習			○			○			
EC210-10-5C-3	経済統計学演習			○						○
EC220-01-5C-3	東北経済論演習A			○				○		
EC220-02-5C-3	東北経済論演習B			○				○		
EC220-03-5C-3	日本経済論演習			○				○		
EC220-04-5C-3	世界経済論演習			○				○		
EC220-05-5C-3	国際経済論演習			○				○		
EC220-06-5C-3	国際金融論演習			○				○		
EC220-07-5C-3	都市経済学演習			○				○		
EC220-08-5C-3	経済発展論演習			○				○		

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）							
		経済学に関する幅広い視野、基本的な知識及び思考力を有すること	経済学に関するいくつかのテーマに特化した専門的な知識を有すること	経済学に関する研究課題について、専門的な見識を有すること	経済学に関する学術的遂行及び研究成果の発表に必要となる知識、技能、意欲を有すること	経済学研究科に関する理論的知識を有し、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	政策に関する知識を有し、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	歴史に関する知識を有し、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	数量分析手法に関する知識を有し、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。
EC220-09-5C-3	農業経済論演習			◎			○		
EC220-10-5C-3	情報経済論演習			◎			○		
EC220-11-5C-3	中小企業論演習			◎			○		
EC220-12-5C-3	財政学演習 A			◎			○		
EC220-13-5C-3	財政学演習 B			◎			○		
EC220-14-5C-3	経済政策論演習			◎			○		
EC220-15-5C-3	社会政策論演習			◎			○		
EC220-16-5C-3	社会保障論演習			◎			○		
EC220-17-5C-3	社会福祉論演習			◎			○		
EC220-18-5C-3	加齢経済論演習			◎			○		
EC220-19-5C-3	環境経済論演習			◎			○		
EC220-20-5C-3	経済地理学演習			◎			○		
EC220-21-5C-3	地域社会論演習			◎			○		
EC220-22-5C-3	現代社会論演習			◎			○		
EC220-23-6R-3	研究科論文指導				◎				
EC230-01-5C-3	経済史演習 A			◎				○	
EC230-02-5C-3	経済史演習 B			◎				○	
EC230-03-5C-3	経済学史演習 A			◎				○	
EC230-04-5C-3	経済学史演習 B			◎				○	

◎経済学研究科経済学専攻博士後期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制 2025年度入学生適用

1. 博士後期課程における研究指導計画

博士後期課程は研究者養成を主眼としているので、より高度な専門的授業科目として「経済学演習 A・B」を設置している。「経済学演習」の履修が中心となっており、複数指導教員による研究指導と博士論文の作成に重点がおかれている。本研究科では、これを実質化するために、学内での研究報告に加えて、学生がその研究成果を国内外の学会で報告することを奨励している。承認された博士学位論文は本学学術情報リポジトリに公表することが義務づけられている。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教員及び副指導教員を決定する。 各大学院生は、主指導教員の「経済学演習 A」を履修し、指導教員と相談の上、1年次終了時の到達目標を決定する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【2年次】

4月	研究科ガイダンスを行う。各大学院生は、主指導教員の「経済学演習 B」を履修し、指導教員と相談の上、2年次終了時の到達目標を決定する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【3年次】

4月	研究科ガイダンスを行う。各大学院生は、指導教員が担当する「論文指導」を履修し、博士論文の完成を目指して必要な指導と助言を受ける。
9、10月	博士論文の中間報告を行う。指導教員を含む本研究科の全教員から指導と助言を受ける。
1月	博士論文の提出。
2月	論文査読ならびに口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、経済学研究科委員会及び大学院委員会で可否を決定する。

2. 学位（修士）論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

経済学研究科の学位授与の方針により、博士後期課程では以下の4基準により、論文審査と口述試験による最終審査をもって、博士の学位審査を行う。

1. 経済・社会の諸問題に関する多角的な視点、高度な知識及び思考力を有すること。
2. 経済・社会の事象や問題について理論的、実証的又は歴史的に高度な分析能力を有すること。
3. 経済・社会の諸問題に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有し、課題解決策を提案できること。
4. 経済・社会に関する諸問題に、経済学の知識を活用して主体的に学術研究を遂行し、研究成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意欲を有すること。

(2) 審査体制

本研究科では、学位論文審査に際して、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）が選任され、論文審査と最終試験（口述試験）が実施される。審査委員は、その審査結果を研究科委員会に報告し、研究科委員会での審議によって合否が決定されることになる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議の後、学位（博士）を授与する。

◎経済学研究科経済学専攻博士後期課程授業科目及び履修単位

2025年度入学生適用

科 目 名	単 位						担 当 者 名
	1 年		2 年		3 年		
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期	
経済学演習 A	4	通年					(本年度休講)
経済学演習 B			4	通年			(本年度休講)
論文指導					4	通年	(本年度休講)

◎履修方法

2025年度入学生適用

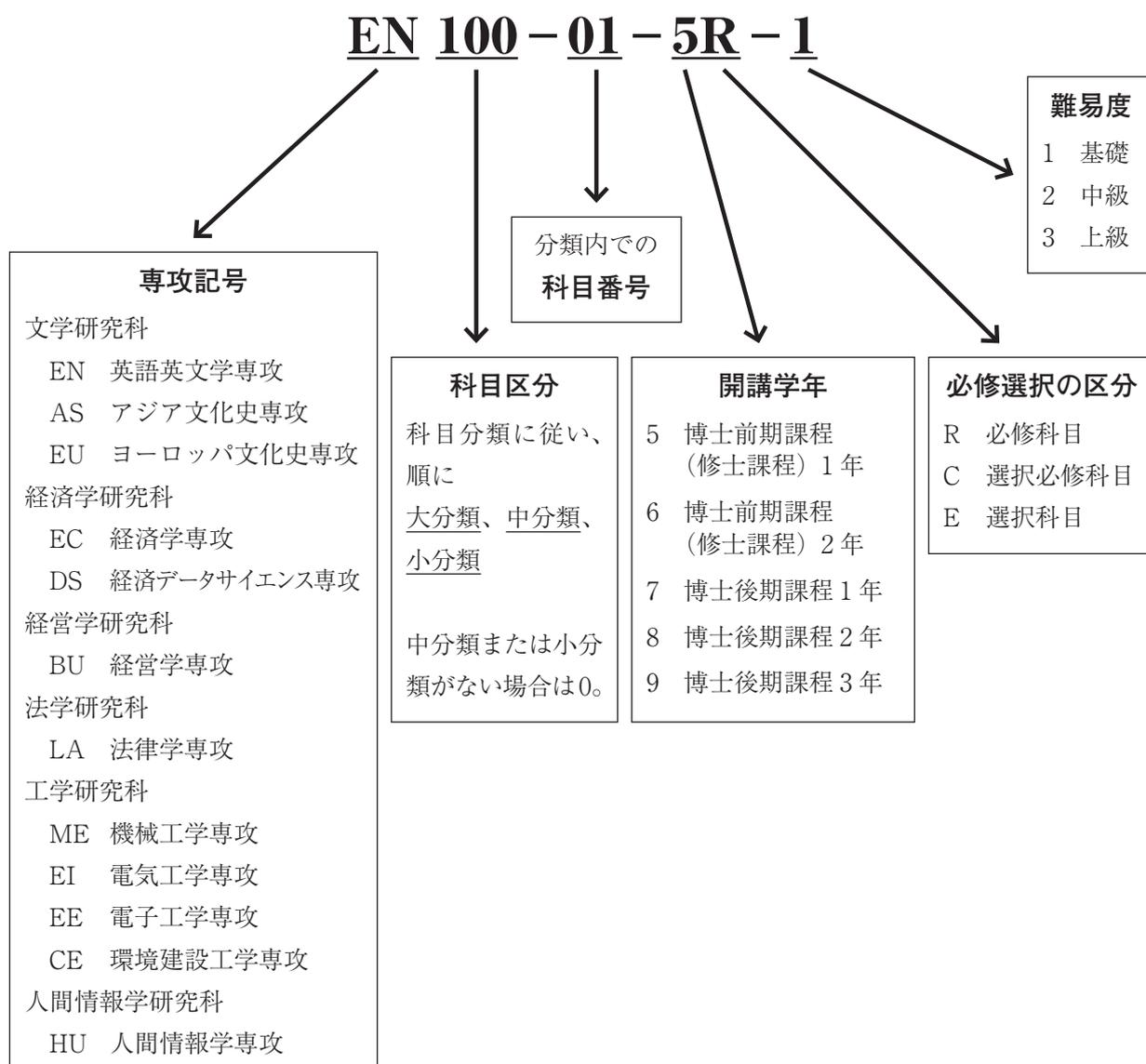
3年以上在学し、授業科目について12単位（演習8単位、論文指導4単位）を修得し、指導教授の指導の下に必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間については、優れた研究業績を上げた者と認められる場合には、在学期間を短縮することができる。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針（ディプロマポリシー）のいずれを達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目について◎は「その科目がその方針の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



◎経済学研究科経済学専攻博士後期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

2025年度入学生適用

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）							
		経済学に関する幅広く視野、基本的な知識及び思考力を有すること	経済学に関するいくつかの特定テーマについて専門的な知識を有すること	経済学に関する研究課題について、専門的な価値のある見解を有すること	経済学に関する学術的遂行及び研究成果の公表に必要となる知識、意欲を有すること	経済学研究科に関する理論に關するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	政策に關するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	歴史に關するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	数量分析手法に關するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。
EC400-01-7R-3	経済学演習 A				◎				
EC400-02-8R-3	経済学演習 B				◎				
EC400-03-9R-3	論文指導				◎				

◎経済学研究科経済学専攻博士後期課程における研究指導計画と学位論文審査基準・体制 2024年度以前入学生適用

1. 博士後期課程における研究指導計画

博士後期課程は研究者養成を主眼としているので、より高度な専門的授業科目として「経済学演習 A・B」を設置している。「経済学演習」の履修が中心となっており、複数指導教員による研究指導と博士論文の作成に重点がおかれている。本研究科では、これを実質化するために、学内での研究報告に加えて、学生がその研究成果を国内外の学会で報告することを奨励している。承認された博士学位論文は本学学術情報リポジトリに公表することが義務づけられている。

【入学試験時】

面接試験の時に学生の研究関心を確認する。

【1年次】

4月	研究科ガイダンスを行い、各大学院生が提出した「研究計画書」に基づき、指導教員及び副指導教員を決定する。 各大学院生は、主指導教員の「経済学演習 A」を履修し、指導教員と相談の上、1年次終了時の到達目標を決定する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【2年次】

4月	研究科ガイダンスを行う。各大学院生は、主指導教員の「経済学演習 B」を履修し、指導教員と相談の上、2年次終了時の到達目標を決定する。
9月	各大学院生は、個別の研究テーマに基づく研究の進行状況について報告し、指導教員の確認を受ける。
2月	各大学院生は、「研究経過報告書」を作成し、指導教員に提出する。

【3年次】

4月	研究科ガイダンスを行う。各大学院生は、指導教員が担当する「論文指導」を履修し、博士論文の完成を目指して必要な指導と助言を受ける。
9、10月	博士論文の中間報告を行う。指導教員を含む本研究科の全教員から指導と助言を受ける。
1月	博士論文の提出。
2月	論文査読ならびに口述試験による最終試験を実施し、論文審査結果報告書を提出する。その結果に基づき、経済学研究科委員会及び大学院委員会で可否を決定する。

2. 学位（修士）論文審査基準・体制

(1) 論文審査および最終試験の審査基準

経済学研究科の学位授与の方針により、博士後期課程では以下の4基準により、論文審査と口述試験による最終審査をもって、博士の学位審査を行う。

1. 経済・社会の諸問題に関する多角的な視点、高度な知識及び思考力を有すること。
2. 経済・社会の事象や問題について理論的、実証的又は歴史的に高度な分析能力を有すること。
3. 経済・社会の諸問題に関する研究課題について、専門的で学術的な価値のある知見を有し、課題解決策を提案できること。
4. 経済・社会に関する諸問題に、経済学の知識を活用して主体的に学術研究を遂行し、研究成果の公表にむけて、自立した研究者として必要な知識、技能、意欲を有すること。

(2) 審査体制

本研究科では、学位論文審査に際して、論文審査委員（主査1名、副査2名以上）が選任され、論文審査と最終試験（口述試験）が実施される。審査委員は、その審査結果を研究科委員会に報告し、研究科委員会での審議によって合否が決定されることになる。研究科長はこの結果を学長に報告し、学長は大学院委員会で審議の後、学位（博士）を授与する。

◎経済学研究科経済学専攻博士後期課程授業科目及び履修単位

2024年度以前入学生適用

科 目 名	単 位						担 当 者 名
	1 年		2 年		3 年		
	単位	開講期	単位	開講期	単位	開講期	
経済学演習 A	4	通年					(本年度休講)
経済学演習 B			4	通年			(本年度休講)
論文指導					4	通年	(本年度休講)

◎履修方法

2024年度以前入学生適用

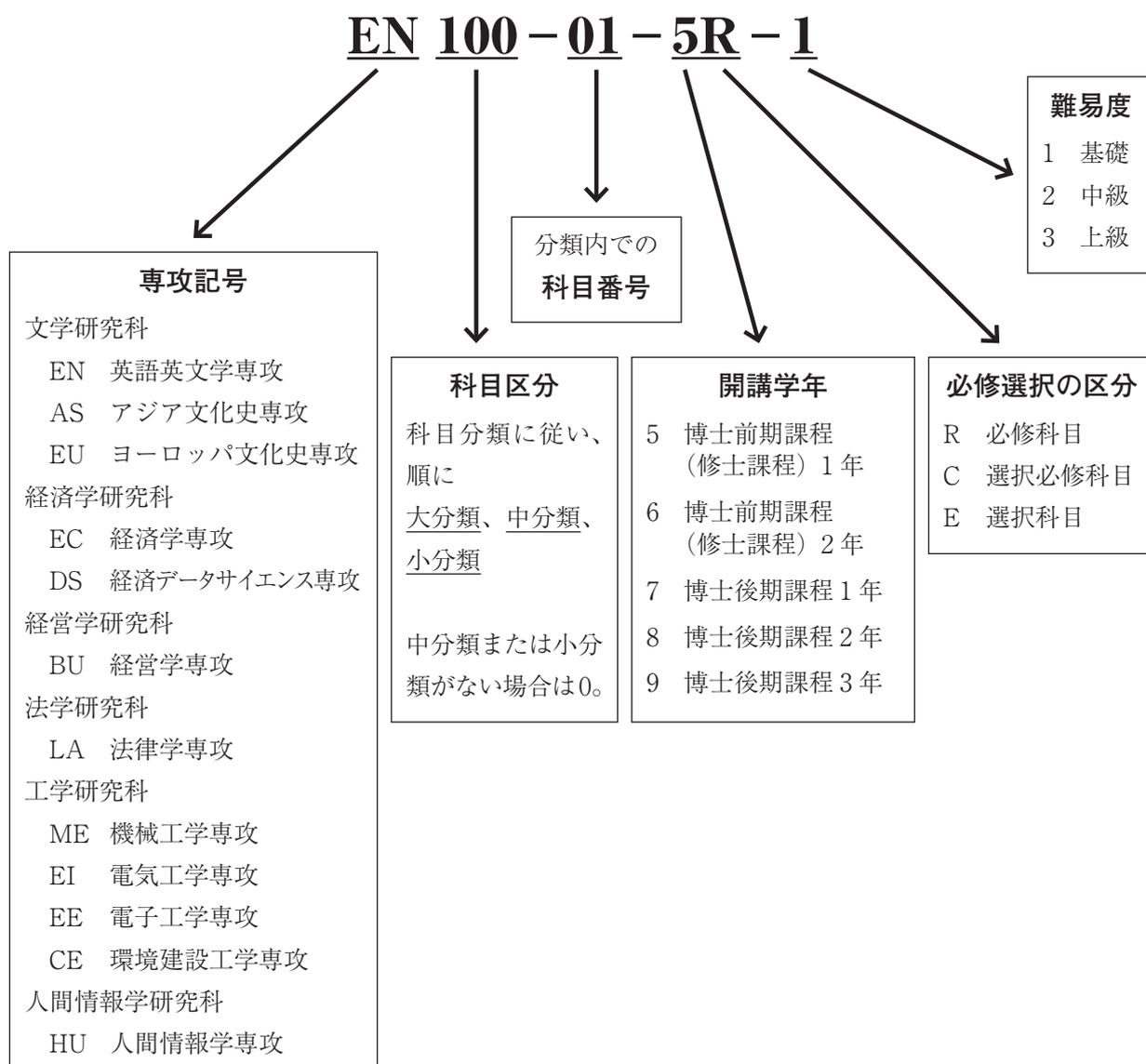
3年以上在学し、授業科目について12単位（演習8単位、論文指導4単位）以上を修得し、指導教授の指導の下に必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間については、優れた研究業績を上げた者と認められる場合には、在学期間を短縮することができる。

〈カリキュラムマップの見方〉

カリキュラムマップは、開講されている各科目が学位授与の方針（ディプロマポリシー）のいずれを達成する目的で設置されているかを示す表です。表の左から「科目ナンバリング」、「科目名」、「学位授与の方針の各項目」の順に並んでおり、学位授与の方針の項目について◎は「その科目がその方針の達成を最も重視していること」を表し、○は「その科目がその方針の達成を重視していること」を表しています。

〈科目ナンバリングの見方〉

科目ナンバリングとは、その科目の性格を端的に示す記号で、以下のような情報から成っています。



◎経済学研究科経済学専攻博士後期課程のナンバリング及びカリキュラムマップ

2024年度以前入学生適用

科目ナンバリング	科目名	学位授与の方針（ディプロマポリシー）							
		経済学に関する幅広く視野、基本的な知識及び思考力を有すること	経済学に関するいくつかの特定テーマについて専門的な知識を有すること	経済学に関する研究課題について、専門的・学術的な価値を見出すこと	経済学に関する学術的遂行及び研究成果の公表に必要となる知識、意欲を有すること	経済学研究科に関するカリキュラムを通して、大学・研究所の教員や研究スタッフを養成する。	政策に関するカリキュラムを通して、大学の教員や研究スタッフを養成する。	歴史に関するカリキュラムを通して、大学の教員や研究スタッフを養成する。	数量分析手法に関するカリキュラムを通して、大学の教員や研究スタッフを養成する。
EC300-01-7R-3	経済学演習 A				◎				
EC300-02-8R-3	経済学演習 B				◎				
EC300-03-9R-3	論文指導				◎				